

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170200535		
法人名	(有)アイシン		
事業所名	グループホームだいこんの花		
所在地	岐阜県関市西神野605番地2		
自己評価作成日	平成23年 9月10日	評価結果市町村受理日	平成23年12月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

身体拘束・虐待をしないケアも、代表者をはじめとして、職員全員が取り組み、月1回はレクリエーションを計画して季節を感じ楽しんで頂いている。料理は極力手作りで提供を心がけ、出来る範囲で入居者様にも手伝って頂いている。又、医療面においては看護師を中心として細かい気付き、体調の変化等を逐一家族に報告し、1ヶ月または2ヶ月に1回でも会い、受診に同行していただくことで、本人、家族、ホームが良い関係を保てるよう努めている。あくまで(本人本意)の支援を心がけ、何を希望され、何に困って見えるか、(いま)(ここで)どのような気持ちで見えるのかなど、声なき声を聴き、対応していくこと、認知症の人の心の世界を理解しようと努め、(安心)していただくこと、(本人らしさ)=本人固有の生き方を大切にすることである。これらはひとりひとりの(尊厳)を守ること、個性を尊重することを前提にした、本人を主人公にした支援であって、援助者主導の支援とは対極のものである。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokouhyou.jp/kai/gosi/p/i/nfomat/onPubli.c.do?JCD=2170200535&SCD=320&PCD=21
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成23年10月21日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は理念に沿って、入居者が自己選択が出来るように、言葉かけに配慮しつつ、入居者一人ひとりのペースに合わせたケアに取り組んでいる。管理者は、地域とのつながりを大切に思い、地域の方と一緒にカラオケ教室にも参加している。ホーム内に婦人部の協力での「いきいきサロン」や子ども110番の指定も受け、地域の方が気軽に訪問が出来る開かれたホームである。ホームの生活状況を話し合い、本人、家族の意向に沿った計画書を作成し、職員全員が同じケアができるように支援している。災害時・緊急時の連絡体制や地域住民の役割も決め、消防署・住民の参加の下、夜間想定避難訓練をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「明るく家庭的な雰囲気なかでその人らしさを大切にしましょう」という事業所理念を玄関という、日常、目に付くところに掲示して認識を促している。理念を職員全員が共有(認識)していると思われるが、必ずしも実践に反映されていない部分を否定できない常に理念を念頭において実践できるよう、意識化を図っていきたい。	ホーム独自の理念を職員全員が共有し、理念に基づき入居者の自己選択が出来るよう実践している。また、家庭的な雰囲気を大切に、時間に余裕を持つ事も大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月々のレクリエーションの中での流しうめんやクリスマス会などに地域の方、地元の中学校をご招待して交流を深めています。喫茶利用や野菜を頂いたり、地域の方と共にカラオケ教室へ参加させていただく場面もあります。	隣接して婦人部の「いきいきサロン」が地域の交流場所となっており、入居者も参加している。また、子ども110番の指定も受け、登下校時に子どもが立ち寄るなど日常的に幅広い交流がある。管理者は自治会に積極的に声かけを行い、地域との繋がりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	あえて理解や支援の方法を伝えているわけではありませんが、青年部・婦人部の方たちに声をかけ、行事に参加して頂いたり、交流の場において、自然と理解して頂いていると感じています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに取り組み等を伝えながら、認知症の人を支援するという事業所への理解を促すとともに、市の当局者・民生委員・家族らと情報交換している。家族の参加を上げたい点、より多くの地域住民・関連機関の参加に上げたい点が課題である。	家族や地域の方に呼びかけ、警察や地元消防団も参加し、災害時・緊急時の連絡体制についての話し合いもある。参加が出来なかった家族には会議録を送付し、内容を理解してもらい、次回、参加に繋がるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市社協の支援事業を利用していたり、成年後見制度の利用があることから市町村との連携は十分とれている。相談事や事業者向けの連絡など相互の連絡体制は十分とれていると感じている。	成年後見制度、財産管理や事業所の問題や運営基準について、相談しやすい関係が築かれている。市町村の協力により、運営推進会議を土曜日に開催するほか、担当者の月に1回の訪問がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については職員全員が理解している。身体拘束廃止のマニュアルを整備し、何を以って「身体拘束」というかを含めた拘束の廃止について周知・徹底を図り、何気ない言葉掛けが入居者の行動制限、又、自由を奪うことのないよう努力している。施錠は、夜間のみ行っている。	拘束についての研修会に積極的に参加し、理解を深めている。管理者は言葉・声かけによる拘束にも注意を払い、気がついた時はその場で話し合いの時間を作り拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングの場で事例を挙げ、どういう行為が虐待につながるか話を聞き日頃、利用者に対しての言葉遣い注意を払い、気をつけている。身体的な暴力の事前防止はもちろん、特に言葉は時として、身体暴力とは別の形の暴力だと考えながら話し合っている。		

グループホーム だいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、学ぶ機会を頂き勉強中。ホームで始めて成年後見制度を使われる方がある。施設長とケアマネが主となって関係者と話し合いの場を持ち、活用できるよう支援中である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関して十分な説明を行っている。不安な思いには十分話をされ、家族に一つの不安もないよう取り組まれていると思う。家族等の不安や十分に表せるような働きかけと説明を行い納得された上で手続きを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方とは、来訪の際に話をし、電話でのやりとりも数回あり、そういった機会の中で意見は聞くことが出来ているが、一部の家族はホームに対する不満を持っていると思うが遠慮しているのではないかと。	訪問時に現在の状況の報告、イベント参加を依頼するなど意見を言いやすい信頼関係が出来ている。訪問が少ない家族には電話連絡等により状況等を伝えているが、意見の反映までは至っていない。	定期的に発行するホーム便りや入居者個々の生活状況をお知らせするなど、逐次状況を連絡することで意見や要望など、より一層言いやすい環境づくりが期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のミーティングを設け、意見や提案を話す機会があり、又、個々にも耳を傾けてくださり、十分反映できている。	管理者に意見・提案が言いやすい信頼関係ができている。部屋のレースカーテンの取りつけで環境改善にも繋がり、記録の書式変更で業務が分かりやすくなっている。ポディタオルの種類等の要望を取入れ運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境、条件に関しては意見を聞いてくださり、問題があれば、即行動していただいている。希望休も他の会社よりしっかり聞いていただけると思う。代表者は、必要に応じて現場に顔を出したり、勤務に入ったりして、職員の姿を見ておられ、向上心をもって働けるよう励ましている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、時には職員と面談の機会を設けられ、管理者や職員のケアの実際と力量を把握していると思われる。そして、スキルアップを図るべく、研修の機会を積極的に設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加されているが、近隣同業者同士の交流はない。そのほかに社会福祉協議会、地域包括支援センター、グループホーム協議会のような組織と交流をし、ネットワークを作りたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まず初期は信頼関係を築くことが一番大切なので、入居時、まずはここが安心できる場所であると感じていただけるよう、関わりを多くもち、不安の解消とともに、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にケアマネ、施設長と家族の方とで要望を聞いたり、相談されているので、その情報等を職員全員で共有している。家庭によっては利用者を病院に行くときなど家族が付き添いが出来なければ事業所が、行うなど要望に対応し助け合い、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームでの新しい生活がスムーズに送れるよう、本人と家族等がまず必要としている支援を見極め、本人が今できる生活活動の維持を大切にしたい支援サービスを検討している。入居者同士の間関係の不安などに対しての心配を取り除くようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人の生活を支えるといった点を重視し、出来ないことは介助し、出来ることは一緒にやって頂き(調理・洗濯・掃除)、共に過ごしているという関係を持つと常に心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来訪された時や電話連絡時に、本人の様子や生活状況を伝え、家族の意向を伺い、本人・家族双方の意向を考慮して支援に反映させている。また、家族の絆を大切にすべく、ともに過ごしていただく時間を家族にお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なかなかなじみの人が来訪されない点であるのが現状である。なじみの場所にもなかなか行くことが出来ないでいる。努力が必要な点である。「センター方式」シートで情報を収集しているが、情報量が少ないので、更にアセスメントする必要がある。	情報が得られない場合には、馴染みの方・場所などの情報収集を積極的に図り、利用していた美容院・雑貨店と一緒にやっている。現在、過去に住んでいた地域(他県)に行く計画を立てている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が声をかけ合い支え合うような働きかけ(関係づくりの支援)は、まだ一般的ではない。特定の方の言動に干渉したり、悪口を言う方がいらっしゃる。孤立している方もいれば、口論が絶えない利用者同士もおられる。トラブルにならないよう、早めに間に入ってなだめ、離れていただき、言われた方には何も悪くないとフォローするとともに、気の合いそうな方との交流を勧めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援の継続は大切にしようと思っ ているが、契約終了すると、やはり関係は断 ち切られてしまっている感じがする。施設長 が時折、転居などで退去された方の家族に 連絡をし、様子を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いや希望は違って、その人らしい生活をして頂きたいと常に思っ ているが、なかなか希望に応じられないで いる。これからもこの点は大切にしてい き、常に考えていき、実践に繋げてい きたい。	家族の面会時に聞き取り等を通して、これ までの生活歴等を探り、思いの把握に努め ている。日々の生活の中で入居者の発した 言葉を「そのままの言葉ノート」に書き、 思いや意向を把握し、申し送り等で周知 を図りケアに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「センター方式」シートへ家族に書いて いただき、これまでの生活歴や馴染みの 暮らし方、生活環境、サービスの利用状 況等の把握に努め、あくまで「本人本 位」の支援につなげるようにしている が、ほしい情報が無い場合があるので、 更にアセスメントする必要があると思 っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の暮らしは介護記録に詳しく記載 することにより、職員全員で情報も共 有することが出来ている。月1回のミー ティングでも話し合いが行われ、現状 の把握が出来ている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主に介護計画を作成しているのはケア マネであるが、入居者一人一人には 担当の職員がいるため、その担当の 職員とケアマネとでモニタリングし て介護計画の作成を行っている。職 員はよく入居者様をみて課題作り に取り入れているが、本人と家族と 職員の間でずれがあると思う。	担当職員が中心となり把握した入居 者の現状、家族の希望を踏まえて カンファレンスで検討し、介護計 画を作成している。心身状況の 変化時には担当・看護師・ケア マネジャー・家族を含めて話し 合い、計画の見直しをして いる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	事実と気づきを分けて書くようになって いる、各入居者の介護記録にその都 度記入して、情報の共有を図り、実 践に活かしている。事実と主観や 解釈を区別して記録することが できればなお良いと考える。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能化にするため、外部との交流・ 連携が必要になってくる事に対し、 本人・家族の状況の変化に応じて、 柔軟な対応に努めている。		

グループホーム だいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域にふれあいセンターが新しく建設されたり、中学校との交流等事業所にとっての地域資源はあるが、ひとりひとりにとっての地域資源を把握できていないので今後、アセスメントしていき、個人の地域資源を活用していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を大事にして、かかりつけ医は入居前から変更はないので、かかりつけ医になっている従来からの受診機関は、本人・家族にとって馴染みのものと思われる。受診に際しては、本人および家族の意向を伺うこと、受診後は、結果を家族に報告することを忘れていない。	かかりつけ医の受診も継続支援している。ホームでの心身の状況を医師に伝え、受診結果を家族に伝え、医師や家族と共に連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤であるため、少しの気付きも必ず報告し、指示を受けている。朝のバイタル、日常の様子でいつもと違うことに気づいたときは、即報告、連絡を取り少しの変化でも受診し適切な看護を受けている。また、夜勤者より毎朝大事な申し送りは受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	入院時は家族からの情報を得たり病院に足を運び本人や家族に接触しその時の様子など職場で得たり、家族と一緒に現在の状態や今後の治療方針、また、治療経過等、しっかり情報を得て安心された治療が出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んで	重度化、終末期のあり方については入居時契約の際に施設長より説明がされており、グループホームという所を納得して頂いた上で、入居され、私たち職員も支援している。	入居時に重度化に関する方針を家族に説明している。重度化した場合は本人、家族、医師とその都度話し合い、本人や家族の希望に沿った最期を迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変に備えて、年に1回程度、講習会を開いていただき、全職員が参加を市実践力を身につけていると思う。今後は吸引器やAEDの導入に力を入れてほしいと思う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2度、消防署・地域の方の協力のもと、避難訓練を実施している。夜間を想定したのも実施できるとよい。緊急連絡網を整備し、定期的に伝達訓練を実施している。	火災や地震を想定した避難訓練を緊急時の連絡と地域住民等にも役割を定めて、地域の方の協力を得て実施している。また、夜間想定避難訓練もしている。お米等の備蓄もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会・ミーティング時に職員間で話し合うことにより、とてもこの点は改善されつつある。しかし、まだまだ忘れてしまうときもあり職員同士で注意し合うよう努めている時々感情的になる入居者様に職員を数人替えながら対応するようにしている。その際の言葉遣いには気をつけるよう努力している。	職員は入居者の人格を大切にし、意思を確認してから介助している。特に、言葉づかいが命令口調になっていないか、馴れ合いになっていないかを会議等でも話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思い・希望を話されているのに職員側が話を遮ったりしてしまうことも多い。自己決定どころかこちらが決定して与えてしまうこともまだまだ多くあり、見直す必要がある。発言だけではなく、表情や全身で反応を注意深くキャッチしながら本人の希望を出来るようにしていきたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりのペースを大切にし、希望に沿う支援ができていないと、必ずしもいえない。入浴するタイミング・時間を職員の都合を優先させている場面、着衣の選択を職員が決めてしまう場面がある。〈本人本位〉の支援ということを常に意識した関わりを総ての職員ができるよう、ミーティング等で訴えていきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時は身だしなみやおしゃれをし、出かけられているが、日常では薄れがちなどころも見られる。気付き、気配りに気をつけ支援する。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるよう「今日のご飯」を示したボードをみんなが見えるところにおいて知って頂けるようにした。時間に余裕があるときなど、食事準備も手伝っていただいている。ただ、食事を楽しむことの出る支援を考えるとなかなか難しくできていないような気がします。工夫が必要である。	入居者と一緒に食事をしており、献立や旬の食材について話題に取り上げるなど、会話等が弾み楽しめるよう工夫している。また、食事の準備、後片付け等、入居者の個別の力を活かせるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた献立作りをしながらも入居者様の嗜好を十分取り入れることを忘れずに、食べる量、水分量も毎日チェックして把握できるようにしている。体重も月末には測定し、体重の増減にも着付けている。夏場は特に水分を摂って頂くよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で歯磨きができる方は見守りをする。しっかり歯磨きが出来ていない人には介助する。歯間ブラシなども使用し、一人ひとりにあった口腔ケアをしている。補助として歯科往診にて口腔ケアを毎週行っている。		

グループホーム だいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄は出来ないと決めてしまわずに本人が気持ちよく利用できるように介助や工夫をしている。一人一人の排泄パターン、リズムをつかみ、声をかけて誘導し、なるべく失敗のないように心がけて支援している。	個々の排泄チェック表から排泄パターンを把握し、オムツを減らしトイレでの排泄を目指し支援している。また、手摺りやドアについて入居者の状態に合わせて工夫し支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便のチェックを行い、3～4日以上出ないときには看護師との相談の上、指示の元、薬を使用したり、している。薬に頼りがちなため、運動や献立に工夫をし、日々の予防に取り組んでいきたい。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の都合で曜日や時間を決めてしまっているのが現状である。その中で入浴拒否をされる場合は時間をずらして声をかけ、入りたいと思われるまで待ったりだとか、次の日に入って頂くとかのは配慮している。本来なら夕方～夜に入って頂くのがベストなのだろうけど様々な理由からできないでいるが、本人様希望の時間帯に入浴できるように考え努力していきたい。	入居者の希望や健康状態に合わせ、時間や曜日に配慮している。同性介助で入浴を楽しむことを基本とし、希望があれば毎日入浴できる体制づくりを検討している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝寝をしたい方にはゆっくりと起きていただき、昼間に休みたい方には夜のことも考え、数10分程度の昼寝になるように見守っています。夜も眠くなって寝たい方は就寝され、テレビを観たい方は観たりして一人一人個々に対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬をすべて理解しているとはいえないところがある。看護師に頼ってしまっている部分もあり、忘れがちなら自分で再度理解し直す必要がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人やりたいこと、好きなこと・物は違って、一人一人に個別で支援したい気持ちはあるが、日々の仕事で追われなかなか出来ないでいるのが現状である。毎日だけでなく週1の割合で一人一人の希望を叶えられるようにして行けるように考え、実践していきたい。日常的に家事(ごみ集め、掃除、洗濯物干し・畳み、調理の一部等)を役割として数人の方にしていただいている。楽しみごとの支援については、集団でのものはあっても、ひとりひとりのものはできていない(個別支援)にこだわりたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望には添っていないことが多く、職員の判断で行き先なども対応しているのが常となっている。本人の意見を聞き、家族からの協力も得ながら出来る限り買い物や外出に付き添って一緒に出かけていけるようにしていきたい。	近所を散歩したり、近くのお店へおやつを買いに行ったり、日常的に外出している。入居者の希望でお墓参りやカラオケの大会へも参加しているが、入居者個々の希望の反映までには至っていない。	入居者個々の外出等の希望を聞き、担当者と家族、地域の人の協力の下、気分転換やストレスを発散できることの支援を職員間での話し合い実践につなげてほしい。

グループホーム だいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	持病の特性上、金銭管理が難しい方ばかりなので、家族からお預かりして事務所で管理している。個人で所持されている方もみえ、時々残金を確認している。全員、外出時に自分の好みの物を自分で支払って買って頂けるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいと希望される方には事務所の電話を使って電話をかけていただいている。手紙のやりとりはないが年末に年賀状を書いたりして送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間はみんなが使うところなので、常に掃除をして清潔を保つようにしている。室温も入居者様に合わせ、調節し、光も明るすぎず暗すぎずになっている。季節感を出すよう季節の花を飾ったり、室内を装飾したりしている。リビングにはソファを置き、ゆったり過ごせる空間作りをしている。	玄関には季節の花を飾り、常に清潔を心掛け入居者と共に家庭生活を感じられるように工夫している。室温や光の注ぎ具合にも気を使い、ゆったりとしたソファ等でくつろぎ、安心して過ごせる環境づくりに配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の部屋、気の合う方の部屋のほか、和室、ソファ、テーブル席等のある居間でも思い思いに過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみのある物は入居時に持ってきていただいているが、意外とそういった物は少ないが、仏壇やタンスといった馴染みの家具や使い慣れたもの、好きなもの等を部屋に配置したり、飾ったりしていただくようにしている。居室が本人様にとって居心地がいい人もいれば、ただ寝るだけに入る居室になっている方もみえる。	馴染みのタンスや仏壇、家族の写真を持ち込み、入居者一人ひとりの好みや使い慣れた物を活かして、本人が居心地良く過ごせる居室になるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お風呂場やトイレには戸にわかるよう名を示してある。居室にはネームプレートを下げ、なるべく本人様が迷わないよう工夫している。廊下には歩行時の安全のため、手すりをつけられている。お風呂場やトイレにも手すりや棒を付け、安全には入れるよう工夫している。各部屋(トイレや浴室など)すべてにナースコールをつけて何かあればすぐに助けを呼べるようにしている。		